週間天気予報解説資料

2026年3月15日10時00分発表
気象庁

予報期間　3月16日から3月22日まで

◆今期間のポイント

＜主要じょう乱の概要＞

- 18日から19日にかけて、前線が西日本から東日本を東進する。また、低気圧が中国東北区を進み、低気圧からのびる前線が19日に北日本を通過する。
- 20日から21日は、前線が日本の南に停滞する。
- 20日から22日にかけて、高気圧が黄海付近に留まるが、高気圧の一部が21日にかけて日本の東へ移動する。

＜防災事項＞　11時、17時発表の早期注意情報に合わせて当項目は修正する場合があります。

- なし。

※最新の早期注意情報、気象情報、台風予報も参照ください。

以下の資料は、気象事業者等が、気象庁の提供する週間天気予報の根拠を理解するための補助資料であり、そのままの形式で一般に提供することを想定して作成したものではありません。

◆10時時点の３～７日目の天気予報案　(11時以降は気象庁HP等にて発表予報をご利用ください。)

- 北日本は、雲が広がりやすく19日と20日は雪か雨の降る所がある。
- 東日本は、雲が広がりやすく18日から21日にかけて雨の降る所がある。
- 西日本は、18日から19日にかけては雨の降る所が多いが、その後は曇りや晴れとなる。
- 沖縄・奄美は、18日は晴れる所が多いが、その後は曇りや雨の降る日が多い。

◆アンサンブル(ENS)平均予想図　上図：500hPa高度線、渦度　下図：海面気圧、地上風、前24時間降水量(21時)

3月18日(水)　3月19日(木)　3月20日(金)　3月21日(土)　3月22日(日)

渦度(10^{-6}/sec以上)　0　10　20　40　80　100　風速　10KT　50KT　降水量(mm/24hours以上)　2　4　8　16　32　64

◆3月21日のENSクラスター平均(グループ1～5)とGSMの地上予想図　海面気圧、地上風(GSMのみ)、前24時間降水量(21時)

風速　10KT　50KT　降水量(mm/24hours以上)　2　4　8　16　32　64

◆昨日資料からの変化と予想のばらつき

- 最新のアンサンブル資料（ENS）は、19日から20日にかけてサハリン付近の低気圧の勢力が強まった。20日から21日にかけて、暖かく湿った空気の影響が強まったため沖縄・奄美で降水確率ガイダンスの値が大きくなった所がある。
- モデル間の差は、19日までは小さいが、その後は日本の北を東進する寒冷渦やトラフの進みや形にばらつきが見られる。
- スプレッドは、期間の終わりは大きく、特定高度線のばらつきも大きい。

◆ENSからの修正点とサブシナリオ等の補足事項

- 予報は、おおむね最新のENSを基に考える。

今日から明後日までの解説は「短期予報解説資料」を参照ください。